

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	みらいりんく		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 2月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数) 34
○従業者評価実施期間	2026年 1月 15日		～ 2026年 2月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 2日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多角的な療育プログラムの提供(個別・小集団)	運動・感覚遊び・言葉・個別課題の各プログラムを、お子様一人ひとりの発達段階に合わせて柔軟に組み合わせ、早期療育としてのバランスの良い支援を提供しています。	スモールステップを確実に積み重ね、就学を見据えた予習型の支援(机上課題や指示理解など)を取り入れることで、自己肯定感と環境適応力を高めていきます。
2	地域資源を活用した社会性の芽生えを促す支援	近隣の公園での遊びを通じたお友達との関わりや、図書館の利用など、社会との接点を大切にしています。買い物ごっこや実際の買い物体験を通じ、基本的な挨拶や社会マナーの基礎を支援しています。	外出時のルールやマナーについて、その場で分かりやすく視覚的な提示やフィードバックを行い、社会の中で自ら考えて行動できる基礎力を養っていきます。
3	専門性の向上を目指した職員研修	児童発達支援に関する最新の知見や、応用行動分析(ABA)等の専門知識をオンライン研修で共有し、質の高い均質なサービス提供に努めています。	座学と実務(OJT)を連動させ、特に幼児期の特性に応じたアプローチの質をさらに高める体系的な研修制度を推進していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	日々の成長・活動報告の即時性と充実	成長の著しい時期ですが、日々の細かな変化や活動の様子をタイムリーに伝えきれていない場合があります。写真等を用いた視覚的な報告の頻度が課題です。	連絡帳やデジタルツールを活用し、日々のエピソードや活動写真を随時更新します。家庭での様子とリンクした、より鮮明な情報発信に努めます。
2	乳幼児の発達段階に応じた空間の最適化	発達段階や過敏性の有無により、必要な環境が異なります。特に午睡や感覚遊びなど、活動ごとの「静」と「動」の空間の切り分けに工夫を要しています。	パーティションの活用や家具の配置を見直し、お子様が混乱せず安心して過ごせるゾーニングを徹底します。安全で落ち着ける環境整備を進めます。
3	乳幼児期における防災意識の共有と連携	定期的な防災訓練は実施していますが、低年齢児特有の避難の難しさや、具体的な対策内容が保護者様に十分に伝わっていない現状があります。	訓練の様子や、事業所での備蓄・避難計画を「お便り」等で詳細に共有します。保護者様と共にお子様を守るための防災意識の向上を図ります。